

えがおのたね時

2021年
冬



トピック

まな
学

びの保健室「通級指導教室」

～子どもがクラスの中でよりよく学ぶお手伝い～

学校でけがをしたり調子が悪くなったりしたときに、子どもたちは「保健室」を利用します。保健室は各学校に設置されています。保健室には、やさしい保健室の先生（養護教諭）がいて、けがの部位や状態、体調不良の原因をさぐって、けがや病気の治療（応急処置）をしてくれます。

身体のことをみってくれるのが保健室であるなら、通級指導教室は子どもがクラスの中でよりよく学べるように手伝える「学びの保健室」といえます。通級指導教室では、子どもの学びに何らかの支障が出た時に、その状態や原因をさぐって、子どもが各クラスの中でよりよく学べるようお手伝いをしています。

通級指導教室には、いくつかの種類があります。幼児語が残っていたり、特定の音が発音しにくい子や滑らかに話にくい子が通う「ことばの教室」、聞こえにくさがある補聴器を利用している子が通う「きこえの教室」、学習症*やADHDがあって学びにくい子や他者の意図を読んだりコミュニケーションが苦手な子が通う「そだちの教室」、家ではしゃべれるのに学校では緊張してしまってしゃべれない子が通う「こころの教室」、ほかにも、視力矯正しても見えにくい子が通う教室や身体にまひがあったり、身体が虚弱であったりする子が通う通級指導教室があります。

このように、通級指導教室は、さまざまな子どもの困難に応じた指導を行うところです。明治時代の昔から目の不自由な子どもが学ぶ「視覚支援学校（盲学校）」や、聞こえが不自由な子どもが学ぶ「聴覚支援学校（ろう学校）」があります。これらは、子どもが朝から午後下校するまでその学校にいて学びます。また、多くの学校に設置されている「特別支援学級」も、そこに在籍して学んでいます。

しかし、通級指導教室に通う子どもは、大部分の授業を自分の住んでいる地域の学校（自分の学校）で受けながら、週あたり数時間程度、自分の困難に応じた指導を特別な場（通級指導教室）へ出向いて受けています。これは、通常の学級に在籍する子に一部特別支援教育を提供するための特別措置として実施されています。

保健室は各学校に設置されていますが、通級指導教室は多くの市町村で数校から十数校に一教室程度の設置状況です。国では、平成29年度から10年間をかけて、どの学校にも通級指導教室が設置できるように着実な推進を図っているところです。

通級指導教室での学習内容は一人一人に応じたオーダーメイドで作られます。おもに「自立活動」という「つまずきや困難の軽減や解消、克服のための学習」が行われます。私たちの実績によりますと、一定期間（およそ1年6か月）の通級指導後に在籍学校での適応が良くなって再び通級指導による支援を受けた子どもの割合は、16%～22%です。

これは、およそ8割の子どもが一定期間の通級後は安定的に各自の学校で過ごせていることを示しています。

私たちは、通級に通った子どもたちのその後の様子について各学校を通じて調べています。各学校の担任の先生からは、「集中力がついた」「気持ちの切り替えが上手になった」「級友と上手に付き合えるようになった」など、うれしい報告をいただいています。



*学習症（限局性学習症：一般的な知的発達に遅れはないものの聞いたり話したり、推論したりするかなど学習面での広い能力の障害を指し、「読み書きの特異的な障害」「計算能力など算数技能の獲得における特異的な発達障害」があります。



🌸 コロナ禍でも——それぞれのイトコを輝かせて！ 🌸

今回の通信は坂本先生に「通級指導教室」のご紹介をしていただきました。
少し前ですが、SMAPの大ヒット曲に「世界にひとつだけの花」がありました。ナンバーワンではなくオンリーワンが謳われ、個性を大切にしよう！その子の良さを引き出そう！そんな言葉も多く聞かれるようになりました。しかし現状はどうでしょうか…一斉指導のもと、それについてくる子が良しとされ、絶対評価とはいえ、テストの点と平常点（授業態度、提出物など）を合わせて、先生の主観も入りつつ成績がつけられています。

例えば、学校現場では、ノートを綺麗にまとめることや、提出期限を守ることが苦手な、学びづらさ、生きづらさを抱えている子どもでも、適切なサポートがあれば、実力を発揮できる場合があります。

ご家庭の中では、宿題など学校に望まれていることを子どもに促してもうまくいかない時があります。「できない」「やりたくない…」などの子どもの意見や主張は「ワガママ」と捉えられがちですが、どうしてスムーズにいかないのかな？と考えてみてはいかがでしょうか。

この「？」が大事です。子どもの行動や気持ちには必ず理由があって、「何をやりたいの？」「本当はどうなりたいの？」といった詰問ではなく、その子の側に立って思いやりの「？」が持てる社会になれば、子どもたちも自然と思いやりがもてるようになるのかもしれない。

「人は扱うようになる」と言われています。優しくされれば優しくなり、思いやりをもって接すれば思いやりをもてます。そのベースができた時にこそ、きっと「世界にひとつだけの花」の「もともと特別なオンリーワン」が輝いて、お互いに思いやれるようになるのだと思います。

2回目の緊急事態宣言も出され、不安も高まり、なかなか余裕もてないこの頃ですが、「思いやり♡」大切にしたいですね。

2月の公開講座に参加して、その極意を学ぶのもおすすめです♪



みんなで遊んで手作りおやつとお茶でほっと一息
楽しいおしゃべり悩みも気軽に相談
(個別相談も受け付けます)

対象：未就学のお子さんとその保護者
参加費：おやつ代100円 ・場所：きなこ

1月19日(火) 2月16日(火) ・3月16日(火)
9:30~11:00

※駐車場は狭いので、申し込み時にご確認下さい。

■ えがおのたね公開講座のお知らせ ■

イトコサガシ・ワークショップ
～ちがうってステキ！～

と き：2021年2月20日(土)
14:00～17:00(開場13:30)
と ころ：ミューズ所沢市民文化センター
第2展示室(管理棟5階)

発達障害当事者会「イトコサガシ」代表の冠地情さんが2009年から、これまでに43都道府県で1000回以上実施しているワークショップ。人とのコミュニケーションが苦手だと思う方、生きづらさを抱える人のサポートをしていきたいと考える方、ただ単に興味をもった方でもどなたでも参加できます。



お申込みフォーム

私たちえがおのたねは、現在、正会員18名、賛助会員60名です。充実した施設運営のため、新規の正会員・賛助会員を募集しています。ぜひ皆様のお力添えをお願いします。HP・メール・お電話にてお知らせください。会員、賛助会員の方には、季節ごとのたねまき通信や子育て情報をお届けします。既に会員の方には継続をよろしく願いいたします。

《賛助会費》 一口 (年会費) 千円
《正会員費》 (入会金) 1万円 (年会費) 五千円
【振込み先】 ゆうちょ銀行 記号10360 番号21600941

えがおのたね蒔き通信
第30号 2021年1月発行



【発行】 特定非営利活動法人えがおのたね

〒359-0021 所沢市東所沢 3-6-17
TEL/FAX 04-2008-2437(きなこ)
Email(メールアドレス) egaonotane@ozzio.jp
URL(ホームページ) http://egaotane.com